

日本山岳写真協会ニュース

日本山岳写真協会(Japan Alpine Photographers Association)

1月号

2023年1月15日発行
(第499号)

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15番4号 第一原嶋ビル502号
TEL/FAX(03)5357-7387 日本山岳写真協会

メールアドレス japa@lime.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.japa.server-shared.com/>



「 至 福 」

百瀬 典明 会員撮影

総会 開催のお知らせ

日 時 令和5年2月5日(日)
・総会 13:00～15:00

会 場 上野・精養軒
東京都台東区上野公園4番58号
TEL: 03-3821-2181

===== アクセス =====

- JR 上野駅・公園口徒歩7分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線
上野駅8分
- 京成電鉄・上野駅8分

○総会後の新年会は中止といたしました。

●総会の出欠ハガキを未提出の方は至急返送して下さい

令和5年 総会のお知らせ

日本山岳写真協会 会長 橋本 勝

下記要領にて日本山岳写真協会の総会を開催いたします。
万障繰り合わせご出席下さいます様お願い申し上げます。

記

日 時 令和5年2月5日（日曜日）
総 会 ・ 13時～15時
会 場 上野・精養軒
東京都台東区上野公園4番58号 03-3821-2181
議 案 令和4年度 事業報告・決算報告
令和5年度 事業計画・収支予算案 ほか

◎今年にはコロナ禍の中、感染防止もあり新年会は中止といたしました。

◎総会の出欠を12月号に同封したハガキに記入し至急到着する様投函して下さい。
なお欠席の方は委任状に記入して返信して下さい。

年 頭 所 感



日本山岳写真協会
会長 橋本 勝

新年あけましておめでとうございます。旧年中は当協会の活動に特設のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、FIFA ワールドカップ・カタール2022で日本サッカーチームの活躍と、また、アメリカ大リーグでの大谷翔平選手の活躍で日本中が熱狂で盛り上がりました。

国内では、新型コロナウイルスの変異株が現れ、第8波の再流行をしておりますなか、令和4年12月17日の土曜日に合同理事会が開催されました。全国から支部長が出席して、令和5年度の当協会の運営方針を議論され、決定していただきました。会員代表して御礼申し上げます。

昨年の協会展は、東京都美術館にて、新開催期間として9月9日～17日となり、今までより一週間後となりました。会場も2階第

一展示室で一番手前の新会場となりました。ご来場者も一昨年より約2000名増の約5000名となり、盛況な写真展となりました。昨年の支部活動としては、「関西支部25周年記念写真展」及び「両毛支部結成四十年記念写真展」「両毛支部結成四十年記念祝賀会」が開催されました。又、合同撮影会は山梨支部主催で、忍野から富士山を撮影する撮影会が開催されました。支部の益々の活躍を喜ばしくお祝い申し上げます。

今年の令和5年（2023年）は「癸（みずのと）卯（うさぎ）」年です。卯（うさぎ）は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」。また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。当協会も会員減少傾向となっておりますが、来年の日本山岳写真協会・創立85周年にむけて、新たに選出された理事会の元で更なる飛躍の年となることを願います。

令和5年度総会は2月5日（日曜）に上野精養軒で開催されます。会員皆様のご出席で新年度の方針の決定を期待して、日本を代表する山岳写真家の集団として更なる前進をしたいと思っております。

支部長年頭あいさつ



東海支部長
佐藤 孝也

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

少しずつコロナの脅威から解放され、山へと足を運ぶ今日この頃ではないでしょうか。私も昨年は低山・高山へ感染防止に努めながら登山に行きました。その中のひとつで日向山という山梨にある 1600m そここの山に初登頂しました。

35 年前、登山を始めて間もない頃、当時国鉄の職員で日本山岳会会員という経歴を持った山村正光氏が著した「車窓の山旅・中央線から見える山」（実業之日本社刊）を手にして夢中で読んでいました。今回、日向山を登るにあたってこの本を思い出し、本棚の奥から探しました。130 山ほど紹介されていますが、35 年前ほとんど登っていない山に憧れを抱いて読み、半分以上登った今は感慨深く読み返しています。当時、日向山は私が好きな甲斐駒ヶ岳が間近に眺められる山とし

てすぐにでも登山に行くはずだったのですが、いつの間にか年月は流れ、420 山目の登頂コレクションとなりました。

本の紹介通り小淵沢駅から「甲斐駒ヶ岳の斜め左下に夏でも真っ白な大きな斜面が見える（略）この斜面の左が日向山で・・・」を確認して、山頂付近の雁ヶ原では「あの小淵沢駅で見た白砂の斜面に飛び出す。眼前には甲斐駒ヶ岳、右を見やれば八ヶ岳が大きく、それこそ雄大に、壮大に裾野をひいている・・・」を満喫しました。この本の中で甲斐駒ヶ岳は「山の団十郎」と呼ばれていると紹介されており、この呼び名は当時の私が気に入ってしまい、甲斐駒ヶ岳が見える度に「おっ団十郎が見えるぞ！！」と今でもそう叫んでいます。

春分の日頃、日向山は残雪多く、行程半ばから雪上歩行となり楽しさと緊張の入り混じる登山でした。山頂は樹林に囲まれています。西へ 5 分ほど行けば雁ヶ原に着き、本の通りの眺望が見られ、多くの登山者が歓声を上げていました。冷たい風が吹く中、暖かいコーヒーを片手に山々との対話を楽しみました。ただこの時は白砂（花崗岩礫）ではなく、真っ白な雪の斜面でした。

今年も様々な山の楽しみ方と山岳写真本気撮影をやって行きたいと思います。東海支部共々宜しくお願い申し上げます。



松本支部長
藤野 真

新年あけましておめでとうございます。2022 年の支部役員改選に伴い、百瀬前支部長から支部長職を引継ぎました藤野真と申します。

松本支部は、2020 年、2021 年とコロナ禍にて主だった行事のほとんどを行うことができずでした。昨年 2022 年は、撮影会の開催はできませんでしたが、総会、写真展、例会に関しては復活することができました。

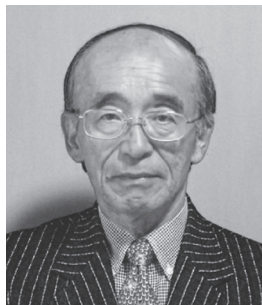
写真展は、3 年振りであったこと、コロナが収まりきっていないことなどから不安もありましたが、概ね従前に近い人数の来場をいただくことができほっとしました。写真展で利用する松本美術館はメンテナンスが入り

照明の入れ替えがなされておりました。結果、これまでに比較して会場が随分と明るくなり（演色性 Ra95 を確保しながら、照度が約 300 ルクスから約 800 ルクスにアップ）鑑賞しやすくなりました。明るさが増すことで、作品からより強いインパクトを感じていただけたのではと思っています。松本美術館 good job です。このご時世アマゾンでの買い物・動画配信等、家に居ながら楽しく過ごせます。そんな中、わざわざ足を運んでいただいた来場者の方に喜んでいただける作品・サービスとは何か、今後も協会展及び各支部さんの作品展を拝見しながら考えを深めていきたいと思いました。

コロナ禍の影響は今暫し続くものと思われませんが、本年は支部撮影会も実施するなど、会員間の交流を元通りに活性化し、進歩の激しい技術動向をキャッチアップしつつ、変わらぬ美しい山岳景観をキャッチしてまいりたいと考えております。

本年も松本支部に変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願いするとともに、会員皆様にも良い年となりますようお祈り申し上げます。

支部長年頭あいさつ



北陸支部長
高見 源彰

新年明けまして おめでとうございます。
会員諸兄姉には、更なるご活躍の年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

思まわしい新型コロナは依然として居座ってはいますが、ワクチンも進歩し、治療薬も出まわり始めました。With コロナの時代になったと思う。

途端にインフルエンザも出てきたが、今まで通り、自分の身は自分で守るしかない。しっかりした防御策を講じ、うつらない、うつさないよう最善の注意を一人一人実行するしかない。これも新型コロナから学んだ教訓だと思います。

さて、北陸支部は設立 30 周年という節目の年となりました。平成 5 年に設立され、令和 5 年に 30 周年迎えたこととなります。

この 30 年間にいろいろなことがあった。



南信支部長
津野 祐次

新年あけましておめでとうございます。

南信支部令和 4 年度の事業は、新型コロナウイルス感染症予防対策の一環として新年総会を支部員が一同に集まることなく、紙面決議として採択していただき、全員の賛同を得てスタートしました。

3 月には南信支部第 27 回飯田移動展を飯田市美術博物館で開催。9 月には南信支部第 28 回写真展を開催することができました。

日本山岳写真協会の副会長様をはじめ理事長様、各理事の皆様、そして各支部長様にお越しいただき、大変励みになりました。重ねて厚く御礼申し上げます。

南信支部の例会は 4 月から通常通り開催を開始し、写真展の準備や写真研究会等を行い

創設から活躍された多くの会員は退会された人もあり、亡くなられた会員も多い。振り返ってみたら創設期からの会員は私一人になってしまった。

寂しいが前を向くしかない、現会員 14 人で地道ながら次のピークを目指していきます。

会員の近作・新作を中心に 30 周年記念写真集「山の断章Ⅲ」を発刊できたことを、会員一同喜びを分かち合いたい。

内容的には、立山、劔岳が中心で特に劔岳をテーマにした作品が全体の半数の近くになってしまった。協会員の諸兄姉にご覧いただきご講評を賜れば幸いです。

更に昨年秋、地元で面白いニュースが飛び込んできた。富山、石川、静岡 3 県知事が立山、白山、富士山の「日本三霊山」を縁結びとして経済・文化で交流の輪を広げようと協定を結んだ。

今富山の美術館で「日本三霊山展」という絵画展が行われている。山岳写真展としても面白い企画になりそうだ。……

夏の支部展に続き石川県でも展覧会を企画したが会場（21 世紀美術館）の都合で翌年の 3 月にずれ込んだが、事務局長の奮闘でなんとか実施できるようになった。「北陸支部 30 周年記念展」と位置付けみんなで頑張りたい。

ました。しかし、親睦を深めるための撮影会、懇親会、例会時のコーヒータイムなどを中止するなど、一部の事業につきましては断念せざるを得ませんでした。

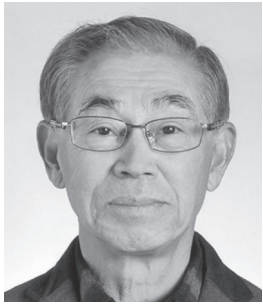
南信支部副支部長の池上敏夫さんは高遠町観光フォトコンテストに入選するなど、南信支部の皆様は大いに活躍された年でした。

隣接する支部の両毛支部展、山梨支部展、東海支部展、関西支部展、松本支部展へは、南信支部代表者のみでしたが、拝見させていただき、交流を深めることができました。

南信支部本年度の事業は、7 月に南信支部独自の撮影会、9 月には長野県伊那文化会館にて南信支部第 29 回写真展を開催する予定です。例会につきましては、写真研究会を主に各月開催を目指します。役員は任期があと一年ありますので、事務局長が織田吉夫さんにバトンタッチしますが、支部長以下同じ役員構成で事業を推進してまいります。

南信支部創立 30 周年が来年に迫っておりますので、その企画や準備に入ります。日本山岳写真協会の先輩諸兄の皆様におかれましては、かわらぬご指導をお願い申し上げます。

支部長年頭あいさつ



両毛支部長
緑 壱 公一

明けましておめでとうございます。
会員の皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
昨年は、支部結成四十周年を迎え大きな節目の年となりました。
一昨年から準備を始めた四十周年記念写真集を6月に発行し、同時に四十周年記念展を開催しました。また、記念祝賀会も当初予定していた時期を変更して、無事開催の運びとなり、これで一連の四十周年記念事業を滞りなく終了することができました
これもひとえに、四十年の長きにわたり山岳写真の創作、研究活動を行い、地域の文化の向上に多大な貢献をし、また、支部の発展に寄与された諸先輩方のご尽力と、関係者の長年にわたるご指導、ご鞭撻の賜物であり深く感謝申し上げます。
さて、世界的に新型コロナウイルスの感染

症のまん延が続き、我が国の経済活動、国民生活に極めて大きな影響を与えています。未だに予断を許さない状況が続くことが予想されますので、引き続き感染症対策を徹底し、これからはウイズコロナ、アフターコロナを見据え活動していくことが求められます。

両毛支部として、令和4年度最後の事業であります支部撮影会を2月11日～12日、菅平奥ダボス・根子岳で予定しています。今回は3年振りの撮影会開催となりますので、今後、コロナ禍での状況が大きく変わらないことを願っています。

今年は卯年。ウサギのおとなしく穏やかな性格から「家内安全」・「子孫繁栄」、飛び跳ねるイメージから「飛躍」・「向上」、長い耳から「福を集める」、古来より月の使いともいわれ「ツキを呼ぶ」まさに良いことずくめの卯年です。

2023年はぜひ「飛躍」の年にしたいですね。ただし、「二兎追うものは一兎をも得ず」ということわざも。くれぐれも欲張り過ぎないように謙虚に過ごしたいものです。

本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後になりますが、協会の益々のご発展と会員皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



関西支部長
山 下 豊吉

新年あけましておめでとうございます。
協会内部で最後に支部を立ち上げた関西支部も昨年ようやく25周年を迎え、記念の写真展を開催することができました。
山岳写真のすばらしさ・魅力をより多くの皆様に味わって頂ける思い出に残る写真展になったのではと思います。
毎日新聞には「千変万化の山の魅力を展示」、京都新聞には「四季折々の山の美しさや厳しさを捉えた写真展」と紹介された関西支部展でありましたが、総数で約190点の作品をご提供頂いた皆様にご感謝申し上げます。
昨年の関西支部展のご報告は協会ニュース

12月号に掲載頂いておりますので、そちらに譲るとして、特に印象に残っている取組みについて述べてみたいと思います。

一昨年の企画展では、ベテラン男性会員による「同年同期三人展」が好評でした。それをみた女性会員から私たちもやりたいと声上がり、早速採用させて頂いたのが昨年の企画展「熟・山ガール写真展」であります。

世間では「ジェンダー平等」ということで、男女同権が叫ばれております。

登山人口の男女の割合は年代により異なりますが、凡そ50%：50%です。山岳写真家はどうか？日本山岳写真協会での女性会員の割合は10%強です。

要は女性山岳写真家の割合が、女性登山家に比べて少ない訳ですが、昨年の関西支部展の取組みが山岳写真家の「ジェンダー平等」に一石を投げられたとしたら嬉しい限りであります。

また、昨年は各支部様との交流ができた年でもありました。関西支部展へは沢山の役員・会員の方のご参加がございましたが、当方からも各支部の支部展及び合同撮影会へ代表者の

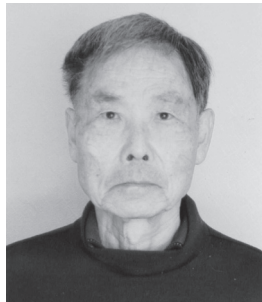
みでありましたが参加させて頂き交流を深めることができたと思います。

本年は卯年です。コロナ禍から脱兎のごとく飛び出し、立てた事業計画はきちんとやり

きる。そして飛躍の年にしたいものです。

本年も関西支部に対する変わらぬご指導・ご協力をお願いしますとともに、皆様には佳き年になりますよう心から祈念申し上げます。

支部長年頭あいさつ



山梨支部長
福島 静雄

昨夏、北岳登山をあきらめた。大樺沢ルートが通行止めになったのだ。私にとっては、だれが何を言おうが、北岳へ向かう、慣れ親しんだコースなのである。水害で橋が落ちたらしい。そういえば、広河原～北沢峠間が3年前から今に至るも通行止め。この辺りの山々はあちこち傷だらけという状態だ。

ということがあって、伊那側に迂回し、仙丈ヶ岳に登ることにした。ここは恐れ多くも、南信支部の直轄地だ。「縄張りを荒らしてすまぬ、赦してくれ」と西方に向かって幾度か低頭し、登りだした。

小仙丈に着くと、大学生らしい、若い登山者がたむろしている。こういった集団に出会うと、つい説教を垂れてしまうのが悪い癖だ。「あんたらの親がオギャーと生まれるはるか昔に、ここに登っているのだぜ」

彼らは一瞬、なんだいこの年寄りは？といぶかしげな表情を見せたが、すぐに山中に出現した絶滅危惧種扱いにされ「おじさん一緒に写真を撮ろうよ」と、スマホを代わる代わる出しては大いに盛り上がる。

そんな間にも、続々登山者がやって

くる。みんな若い、女性も多い。しばらく彼らを眺めているうち、ふと、思うのである。

いよいよ出た…。私の貧弱な脳内には「ふと思う」アプリが内蔵されているようで、突然作動し、どうでもいい雑念が頭の中を駆けめぐるのである。

「どうして、こういった若者達が、わが協会にはいないのかな、女性だって少ない。経済的な理由かな、それとも山の写真に興味がないのかな、もしかして入会のハードルが高いのかもしれない。そりゃそうだよな。

30～40歳代は若手で、実態は、早く言えば（遅くいても同じだが）オヤジ or オッサン集団なのだからな…」などとぼやいて稜線を進むうちに、山小屋が近くなった。

そこでまた、ふと思うのである。このままでは小屋に早く着きすぎてしまい、夕食まで時間がありすぎて、やることもない。そうなれば当然と言おうか、だらだら酒を飲み続け、あげくのはてに、まわりの宿泊客をつかまえては、迷惑を顧みず、聞き飽きた自慢話ばかり開陳することになりそうだ。当方の素行次第では、協会のイメージダウンにもつながりかねない。

よし、ここらで時間稼ぎをしようと思腹を決め、登山道脇の岩に腰を落とした。眼前には真昼の甲斐駒ヶ岳に、次々と雲がまとわりついては流れていく。こうしてカメラも構えずにボーッと眺めるのもなかなかいいものじゃあないかと、またまた、ふと思うのであった。

会計からのお願い

12月号に同封いたしました令和5年度の会費納入の郵便振込用紙を使用して振込んで下さい。（本部会員）

◎会費は1月31日までに納入して下さい。

よろしくお願いいたします。



合同理事会議事録



日時 令和4年(2022年)12月17日(土)
午後1時~午後3時30分
場所 TKP スター貸会議室四谷
3階第2室
出席者 川井・鈴木(克)・花香
青山・飯田・飯塚・岩本・大石
大村・小堀・清水・鈴木(菊)
曾布川・緑川
(委員) 川瀬
支部長 佐藤(東海)・高見(北陸)
福島(山梨)・緑埜(両毛)
藤野(松本)・山下(関西)
監事 中野 22名
(司会) 清水 (議事録) 岩本

関口俊夫(写真展兼会計)
緑川邦雄(写真展)
委員…伊藤哲哉(企画兼写真展)
小堀 彰(写真展)
監事…瀬戸口隆司・渡辺 良
支部長…佐藤孝也(東海支部長)
高見源彰(北陸支部長)
津野祐次(南信支部長)
福島静雄(山梨支部長)
緑埜公一(両毛支部長)
藤野 真(松本支部長)
山下豊吉(関西支部長)

○理事会は原則第3土曜日午後1時から「TKP スター貸会議室四谷3階」で開催。コロナ感染状況により、担当責任者会議を協会事務所で開催する場合がある。

**** 議 題 ****

1 写真展制作費改定案(大石理事)

諸物価が値上がりしている中、富士フイルムイメージングシステムズ銀座クリエイトから協会展で使用するプリントやマットパネルの改定料金が提示された。協会では役員会や理事会で協議し不足金については一般会計の予備費から調整した経緯などを各支部長に説明した。

全倍制作費31000円から4000円値上げて35000円、全紙は17000円から2000円値上げて19000円にすることが前回一致で了承された。

2 令和4年度 決算中間報告(青山理事)

一般会計、写真展会計、選抜展会計、授賞基金、事業会計の順で説明した。一般会計では事務所の更新料と火災保険料が加算された。選抜展会計ではクリエイトからの写真製作費が値上げされての請求で支払ったのでマイナスとなった。

12月末が会計年度での精算後まとめ1月理事会で確認する。

3 令和5年度予算案(青山理事)

会員数の減少で収入が減少、支出の部では事務所費、支部補助費、支部展補助費などの固定費以外は予算を見直した。写真展補助費増額は繰り越し金を回し収支を調整したと報告。

4 令和5年度執行部の役員体制

(清水理事長) 任期2年

新理事候補11名が信任され、その後現理事の新年度からの意思確認後役割分担を調整した。

名誉会長(川口邦雄)・会長(橋本 勝)
副会長(川井靖元・鈴木克洋・花香 勇)
理事長…清水隆雄
副理事長…飯田信義(会報)・岩本直樹(総務)・鈴木菊雄(IT兼写真展)
理事…青山陽子(会計兼総務)
飯塚光男(写真展兼企画)
大村 肅(企画兼総務)
大石高志(写真展兼会計)
川瀬正博(企画兼IT)

5 令和5年度定期総会次第(岩本副理事長) 2月5日(日)午後1時より「上野精養軒」3階で開催する。

司会は大村肅理事(総会成立宣言、黙とう、議長選出など)、事業報告(清水理事長)、決算報告と予算案(青山理事)、令和5年度事業方針・理事改選報告・執行部役割分担(清水理事長)、ホームページ関係(鈴木副理事長)・三賞授与式(大石理事ほか・会長)、支部報告は各支部長、新入会員・退会・休会などの報告は(岩本副理事長)が担当。閉会の辞は司会者。

役員は11時に集合して準備を行う。1月21日理事会で役割分担を確認する。新年会は中止とする。

6 令和5年度事業方針(案) 清水理事長

感染症防止対策を取りながら2年連続で協会展を開催できた意義は大きい、会員が高齢化で減少するなか、新会員の拡充と執行部の委員増につなげたい。

会員の定着につながる新たな企画もあるので活用していただきたい。

○主な事業活動

写真展(協会展・公募展・選抜展・各支部展)・撮影会(合同撮影会・各支部主催の公開撮影会)

例会(例会セミナー・首都圏公開)、研修会(デジタル研修会・山岳写真研究会)

会議(定期総会・協会展祝賀会・公募展表彰式・定例理事会・支部長との合同理事会) 会報の発行年10回、ホームページの活用、山岳カレンダーも制作と販売など。

特別事業として山岳写真セミナー(東京都美術館講堂、協会展開催期間中・一般参加)ほかにも賛助会社との協力や親睦会などを計画している。

7 令和5年度各支部事業計画案

各支部長から来年度の主な事業計画(支部総会・例会・写真研究会・支部写真展・支部撮影会・協会展との共同事業などが報告された。

＜ 報 告 事 項 ＞

*入退会

- ・退会：94 武下 巧、647 今井道夫、751 栗木讓二、761 中村文孝、732 野田良一、775 太田久美子、806 土橋道良、845 明石貴雄、952 大亀喜重郎、1126 小林昌弘、1177 西本裕貴
 - ・休会：571 近藤 博（2023年1年間）
 - ・休会より1月復帰：512 梅本知榮子、1156 増村多賢司
- 11名の退会者と休会1名、休会より復帰者2名を承認した。

*総務（岩本副理事長）

令和5年度定期総会出欠（委任状）はがきを準備し、12月会報に同封する。
返信期間は1月14日迄に願います。

*会計（青山理事） 松本支部写真展補助費を送付した。

*会報（飯田副理事長） 12月号は16頁、総会の出欠はがき、2023年度の会費納入振込用紙を同封する。25日頃配布予定。

*企画（大村理事） 2023年度の研究会開催について議題の方で説明する。

*写真展（大石理事） 2022年度協会展での3賞の「桐箱」「真鍮プレート」が出来上がり、3賞の賞状を制作手配中。

*IT（鈴木理事） 12月末か月初めにトップページを更新する。公募展はアップ済み、協会展の写真をアップする予定です。IT作業は省略化を進めながら縮小していく。

****議 題****

1 写真展制作費について（大石理事）

クリエイトからプリント価格とパネル制作費の大幅値上げの見積書を受け、再度理事会で検討した。出来るだけ出展者に負担をかけないように協議した。2023年度の協会展は全倍 ¥35,000 全紙 ¥19,000 に決定した。不足する金額については繰越金から補填する。

2 令和4年度決算中間報告（青山理事）

令和4年度11月末日締め的一般会計、写真展、選抜展、授賞基金、事業会計の決算中間報告をした。

3 令和5年度予算案（青山理事）

会員数の減少で収入が減り、支出の方では物価値上がりで収支のバランスが取れず、協会展の出展料が決定した事により再度検討する。

4 令和5年度役員新体制案（清水理事長）

令和5年度の執行部役員の役割分担の説明をした。新たに鈴木菊雄氏を副理事長に推挙した。監事候補には理事経験者の渡辺 良氏、瀬戸口隆司氏の了承が得られ、監事（任期2年）をお願いした。

5 令和5年度事業方針案（清水理事長）

来年度も新型コロナウイルス感染防止対策に留意しながら、協会展、各支部展、撮影会、月例会、研修会他の事業を進めると共に、新入会員の拡充と執行部の委員の増員を目指したいと説明した。

6 写真展開催日程について（大石理事）

*選抜展案 開催は2023年11月か12月「ポートレートギャラリー」で開催予定。

応募作品受付 2023年1月15日（日）のみ、審査 2023年1月21日（土）

2023年2月末にポートレートギャラリーへ審査作品、審査書類提出予定。

*協会展案 作品募集要項は2023年1月号会報に掲載予定、応募作品受付 2023年3月6日（月）～10日（金）、作品審査 2023年4月上旬、協会展開催 2023年9月9日（土）～17日（日）、会場：東京都美術館・2階第1展示室、公募表彰式 2023年9月16日（土）。山岳写真セミナー 9月12日（火）13日（水）の予定。

*2024年カレンダー作品募集案 作品募集要綱、2023年2月・3月合併号に掲載予定。

7 令和5年度総会について（岩本副理事長）

令和5年2月5日（日）午後1時より、上野精養軒で開催する。総会の次第の説明と役割分担の説明をした。1月理事会で再確認する。新年会は中止とした。

8 山岳写真研究会について（大村理事）

コロナ禍にあつて、通常の集会形式による例会、研究会を実施する事は難しいと考え2023年度は通常の例会を3月、5月、6月、11月に計画しながら下記に記す案に基づいて企画運営をしていきたい。

①郵送によるプリント研究会（入会5年以内の会員）

②デジタルデータ作品研究会（入会5年以内の会員）

③ズーム形式による研究会

④少人数によりプリント作品研究会（3月、11月に予定、JAPA事務所活用）

⑤最新の機材情報研究会（5月に予定）

合同理事会 12月17日（土）午後1時よりTKPスター貸会議室四谷3F第2会議室

＝ 総務担当より ＝

◎総会の出欠ハガキは（欠席の方は委任状に記入して）必ず返信して下さい。

南信支部展・長野日報に2頁見開きで掲載

長野県下を地盤とする長野日報の9月17日付朝刊2ページの見開きで第27回日本山岳写真協会・南信支部展「^{かたち}貌・季節の中で」を紙上ギャラリーとして取上げていただき、支部員15名の作品が掲載されていた。同支部展は9月19日から25日まで伊那市・伊那文化会館ホールで開催され（長野日報社後援）好評で終了している。



表紙の言葉

「至 福」

松本支部 百瀬 典明

燕山荘小屋締めの際にお世話になるのが恒例行事になってきた。

二日目の稜線はお日様がほほ笑み過ぎて、少々足取りの重い小屋への帰路に突如現れた紫煙に思わずカメラを向けた。

==== 会員往来 =====

退会

- No.94 武下 巧
- No.647 今井 道夫
- No.751 栗木 譲二
- No.761 中村 文孝
- No.732 野田 良一
- No.775 太田 久美子
- No.806 土橋 道良
- No.845 明石 貴雄

- No.952 大亀 喜重郎
- No.1126 小林 昌弘
- No.1177 西本 裕貴

休会から復帰

- No.512 梅本 知栄子
- No.1156 増村 多賀司

休会

- No.571 近藤 博

2月号の予告

- 表紙 首都圏（総会風景）
- 巻頭言 理事長

日本山岳写真協会 事務所

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町15番4号
第一原嶋ビル502号

TEL/FAX.(03)5357-7387

事務所には常駐しておりません

会報担当：飯田信義・川瀬正博